

令和7年度 山口県立大学 看護栄養学部看護学科

学校推薦型選抜 地域貢献人材発掘枠 「総合問題」

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

- 1 解答は全て解答用紙に記入してください。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 3 不正行為について
 - ① 不正行為については厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。
- 4 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題1 以下の文章を読み、3 ページの設問に答えなさい。

私は長く、大学教師をやってきた。

(中略)

そんななかでもっとも強く感じたのは、新しく大学に入ってきた新入生たちに、大学に入った、あるいは「生徒」から「学生」になったという自覚がきわめて薄いということがある。

いまから 50 年ほど前、私が京都大学に入学したとき、時の総長、奥田東先生の入学式の (a) しゅくじ には度肝を抜かれた。奥田総長^{いわ}曰く「京都大学は、諸君に何も教えません」。そのあとどう続いたのか、ほとんど忘れてしまった。「諸君が自分で求めようとしなければ、大学では何も得られない」、たぶんそんな風に展開したのではなかろうか。

大学といふところは、自分に何も教えてくれない。このひと言は (ア) 衝撃 であった。これまで手取り足取り、先生たちから教えられてきた高校までの教育、それらとはまったく違った世界にいま自分は足を踏み入れようとしている。それはまた、心が震えるような (b) こうふん であり、感動でもあった。

(中略)

私も高校のときには、実際によく勉強したと思っている。塾にも通ったし、模擬試験の成績も結構よかった。しかし、何のために突き詰めて考えたことはほとんどなかったような気がする。目の前に、入学試験という目標がぶら下がっていたからである。勉強は試験でいい点数を取るためとして、深く考えることもなかった。

勉強には試験がつきものである。勉強の成果は試験の点数で計られる。せっかく勉強したのであるから、いい点数をとりたいが、そのためには正しい答えに^{たど}逆りつかなければならない。

しかし、この「正しい答え」というのがなかなか曲者である。そこではまず「正しい答え」があるということが前提となっている。あらかじめ用意された答えがあつて、誰が解いてもその一つの答えに到達できるようになっている。試験とはそういうものだ。

(中略)

答えは確かにある。それが初等中等教育における「問題」の大前提である。そして先生はその答えを知っている。その正しい答えに、どうしたら自分たちも到達できるだろうか。先生が知っているはずの答えと自分のものが一致すれば正解で、違っていればバツ。それが入学試験も含めて、高校までの試験の問題であった。

考えてみると、これは怖いことではないか。なぜなら、小学校から高校まで、誰もが一貫して、問題には必ず答えがあるということを前提とし、正解は必ず一つであると思い込んできたのだから。教師の側も、答えが二つも三つもある問題は避けてきただろうし、答えのない問題は出しようがなかった。

どこかに正解があつて、その正解は自分が知らないだけであつて、誰かが（たぶん誰か偉い人が）知っていると、頭から思い込んでいること、その（イ）呪縛のまま、大学においても同じスタンスで教育を受け、そして社会に出ていく。（A）そんな社会人ばかりが増えていくと考えることは怖いことではないか。

高校までの教育においては、これはやむを得ないことである。しかし、実社会に出て、そのような答えのある<問題>というのは、実は何ひとつないのだと言ってよい。

（中略）

数学や物理などの複雑な問題になると、参考書には、模範解答として、どのようにして正しい答えにまでたどり着くか、その筋道そのものを指導しているものが多い。まことに（ウ）懇切丁寧な指導であり、効率的な学習をするには必要なことであるには違いないが、ほんとうはここにも大きな問題があるだろう。つまり、考え方そのもの、考える筋道そのものが画一化されており、出てきた問題は、どの解き方で解けば正解にたどり着けるのか、問題の解法を考えるのではなく、すでに教えられてきた解法のどれに当てはめればいいのかを問うといったものになっている場合が圧倒的に多い。

いわば（エ）定石にあてはめるのであり、受験勉強で多くの問題を繰り返し解く練習をさせるのは、この定石にいかにあてはめるか、その技術を叩き込んでいるのである。

（中略）

問題には一つの答えがあるものだと思ってきた教育と、何一つ絶対的な答えというものがない実社会とのあいだに、（B）バッファー（緩衝帯）が必要だと私は思っている。（1）大学の大切な役割の一つは、高校までの教育と実社会とのあいだのバッファーとしての役割である。高校を卒業して社会にでる人も多いわけであり、ほんとうは高校にもそのような役割があつてほしいとは思っているが、少なくとも大学には、そのような役割は必須のものだと私は思う。

これまでに教わってきた解き方、対処の仕方では対応できない問題に遭遇したとき、どのように自分で考えられるか、どのような解法を模索できるか、実社会に出れば、それは待ったなしの要請として現前するはずのものである。

問いがあつて答えがないという、それまでに経験したことのない（c）ちゅうづり状態に耐える知性。答えがないということを（d）ぜんていに、なんとか自分なりの答えを見つけようとする意志。それにめざめさせるのが、大学の4年間であり、その（e）せきむである。誰かに尋ねれば、必ず答えがあるはずだ、与えてくれるはずだという依存性から脱却する必要がある。

文部科学省は大学の質保証^{しき}ということを頻りに言っている。質とはどれだけの情報を詰め込むかではなく、社会には答えのある問題はないのだと、まず認識させることにあるように私には思われる。

出典：永田和宏著：知の体力，新潮社，2018，11-20 頁，一部改変

以下の設問 1～6 について答えなさい。

設問 1 下線部 (a) ～ (e) のひらがなを漢字で書きなさい。

設問 2 下線部 (ア) ～ (エ) の漢字の読み仮名を書きなさい。

設問 3 下線部 (A) 「そんな社会人」という語句が、この文章中ではどのような意味で使われているか書きなさい。

設問 4 下線部 (B) 「バッファー (緩衝帯)」という語句が、この文章中ではどのような意味で使用されているか書きなさい。

設問 5 下線部 (1) で筆者が考える大学の大切な役割を通して、筆者はどのような社会人を育てたいと考えているのか、書きなさい。

設問 6 あなた自身が答えのない問題へ取り組んだ経験と、その経験から学んだことを 400 字以内で書きなさい。

問題 2 次の英文を読んで、6 ページの設問に答えなさい。

① Quality sleep is essential for maintaining mental and physical health. Not only should individuals improve their own daily habits, companies and schools also need to take steps to ensure good sleep.

According to a survey by the (a) Health, Labor and Welfare Ministry, 40% of those aged 20 or older sleep less than six hours a night, which is considered insufficient. In addition to time spent working, this has been attributed to the fact that people use smartphones and play video games before bed.

(b) Insufficient sleep can easily lead to ailments such as high blood pressure and diabetes. The ministry's white paper on measures to prevent (c) death from overwork cautions that a lack of sleep increases the risk of depression.

However, how much sleep is needed varies from person to person, depending (ア) age and amount of daytime activity.

The ministry has revised its guidelines for sleep to promote health, presenting recommended times by age group. It states that adults should sleep at least six hours, while elementary school students should sleep nine to 12 hours and junior high and high school students should sleep eight to 10 hours.

The guidelines say elderly people should take care not to stay in bed for longer than eight hours unless they have health problems, since the elderly do not need prolonged sleep.

In addition, sleeping late on one's days off to make up for insufficient sleep on weekdays might disrupt the rhythm of daily life and be detrimental to one's health.

The government should strive to inform the public about what to keep in mind in sleep and health.

Problems in sleeping can lead (イ) poor work efficiency and accidents. Companies should also give consideration to improving the quality of sleep of their workers.

Some companies are using sleep management apps to help employees improve their health. There are also businesses that are working to set up dedicated spaces within the company for napping, as appropriate napping improves work efficiency. Each company should devise and promote their own efforts.

The market for sleep-related products has been expanding in recent years. Many products are on the market, such as bedding meant to ensure a good night's sleep and devices to measure sleep quality, indicating a high level of interest among the public.

② As for individual efforts, reviewing lifestyle habits is also effective. For example, bathing should be done one to two hours before bedtime and nightcaps and excessive consumption of caffeine should be avoided.

Insufficient sleep among children is a concern. Most elementary, junior high and high school students sleep around seven hours. Adults must be careful to ensure that (d) staying up late does not become a habit for children.

The city of Sakai provides sleep education for elementary and junior high school students. In addition to teaching them about the benefits of sleep and the amount of time needed, the city has students record their sleep status, and if there are problems, the school side consults with students and their parents to find ways to improve sleep. It is important to promote such efforts across the nation.

出典: Quality sleep / First make efforts to review lifestyle habits, From The Yomiuri Shimbun, April 8, 2024 一部改変

<https://yomidas-yomiuri-co-jp.yplib.idm.oclc.org/japannews/articles/256126>

(2024 年 6 月 24 日アクセス)

注)

ailment 病気

diabetes 糖尿病

measures 手段、方策

disrupt [行為やその進行を] 中断させる、邪魔する、[物事の秩序を] 混乱させる、破壊する

detrimental 有害な、弊害をもたらす

strive [達成しようと] 努力する、骨を折る

apps アプリ

napping 昼寝

bedding [マットレス・シーツ・敷き布団などを含む] 寝具類

dedicated [装置や機能などがある目的達成のための] 専用の、特化した

nightcap 寝酒

設問1 下線部①、②を日本語に訳しなさい。

設問2 下線部(a)、(b)、(c)、(d)を日本語に訳しなさい。

設問3 (ア)、(イ)に入る前置詞を書きなさい。

設問4 次の質問に日本語で答えなさい。

- (1) According to the Health, Labor and Welfare Ministry, what percentage of people aged 20 or older sleep less than six hours a night?
- (2) How many hours of sleep are recommended for junior high and high school students by the ministry's revised guidelines?

設問5 次の文章が本文の内容と一致しているものには○、一致していないものには×をつきなさい。

- (1) The ministry's guidelines recommend that adults should sleep at least six hours.
- (2) Sleeping late on weekends to make up for lost sleep is beneficial for maintaining a healthy lifestyle.
- (3) The city of Sakai provides sleep education only for high school students.
- (4) Many products are on the market to help people ensure a good night's sleep.

令和7年度 山口県立大学 看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜 地域貢献人材発掘枠「総合問題」 出題の意図

【国語】

国語の問題文は、永田和宏「知の体力」の中の一部である。高校までの答えのある教育から答えを自ら見出していく社会人になるまでの間に、自らの姿勢をシフトしていくために大学でどのような教育が必要なのかという問題を論じている。

設問1、2では漢字の知識から国語の基礎的な学力（AP《知識》に関連）を評価する。

設問3、4、5では、筆者の意図をこの文章から正確に読み取る読解力（AP《技能》AP《思考力・判断力》に関連）を評価する。

設問6では、自身の考えを述べる論理的思考力および制限字数内で文章を記述する表現力（AP《表現力》に関連）を評価する。

【英語】

英語の問題文は、ヨミダス The Japan News 英字新聞 EDITORIAL / Quality sleep / First make efforts to review lifestyle habits からの出題である。

睡眠不足は現代社会における大きな健康問題で生物学、心理学、社会学など多岐にわたる学問分野に関連している。

この新聞記事では、睡眠不足による健康への影響や各世代における適切な睡眠時間、質の高い睡眠のための企業や学校などの取り組みが紹介されている。

本試験では、この文章を正確に読み取る理解力、読解力（AP《技能》に関連）を評価する。また、文中の情報を元に論理的に思考する力（AP《思考力・判断力》に関連）と文章中の語彙の意味を問う問題や文法的に正しい表現を記述する表現力（AP《表現力》に関連）および語彙力（AP《知識》に関連）を評価する。

◎

◎

◎

◎

(5枚の1)

問題 1

設問 1

(a)	祝 辞	(b)	興 奮	(c)	宙 (づり)
(d)	前 提	(e)	責 務		

設問 2

(ア)	しょうげき	(イ)	じゅばく	(ウ)	こんせつていねい
(エ)	じょうせき				

設問 3

問いへの解答は1つだけと思い込んでいる社会人



(5枚の2)

設問4

実社会に出る前に、解答のない問いへの対応する力を備える場所

設問5

問いがあつて答えがないという、それまでに経験したことのない状況に対応できる知性や、なんとか自分なりの答えを見つけようとする意志を持った社会人

©

設問 6 →横書き

[illegible]

◎

◎

◎

◎

(5枚の4)

問題2

設問1

- | |
|--|
| ① 質の高い睡眠は、心と体の健康維持に欠かせない。一人ひとりが生活を改善するだけでなく、企業や学校でも快眠のための取り組みが必要だ。 |
| ② 個人の取り組みとしては、生活習慣の見直しも効果的だ。たとえば、入浴は就寝の1～2時間前にし、寝酒やカフェインの過剰摂取を避けることが挙げられる。 |

設問2

(a) 厚生労働省	(b) 睡眠不足
(c) 過労死	(d) 夜更かし

設問3

(ア) on	(イ) to
--------	--------



(5枚の5)

設問4

(1) 厚生労働省の調査によると、20歳以上の40%は6時間未満しか寝ていなかった。

(2) 厚生労働省は、中高生の睡眠時間は8～10時間を推奨している。

設問5

(1) ○

(2) ×

(3) ×

(4) ○